

はじめに

富士通では、当社の歴史を残すため、『富士通アーカイブズ』という活動を行っております。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、隔号で富士通についてのあれこれをご紹介させていただきます。

第七回目は、第11代社長秋草直之の足跡と、昨今のIoT(Internet of Things)への取り組みの先駆けと考えられるスローガンであった“Everything on the Internet”についてご紹介いたします。

1. 第11代社長 秋草直之

1998年（平成10年）6月、富士通（株）の第11代社長に秋草直之が就任します。秋草は文系出身者初のシステムエンジニア（SE）として富士通に入社し、SE出身として初めて当社社長に就任しました。時はビジネスの主体がハードウェアからソフト・サービスに移り変わる時期でした。特に、インターネットが本格的に普及するきっかけとなった1995年のWindows95の発売のあとで、ビジネスの世界でもインターネットの活用が進み、インターネットはすでに必要不可欠な社会インフラとなりつつありました。まさに、産業革命に匹敵するメガトランスフォーメーション（大変革）に遭遇していた時代です。

また、1998年はGoogle社が設立され、また、NTTドコモ様が東証一部に上場を果たした年でもありました。

2. インターネット社会の始まり

当時のインターネットの状況を振り返ってみましょう。すでに、メールやホームページを中心とする利用は定着し、新しい段階への取り組みが始まっていました。例えば、当時、端末はパソコンが主流でしたが、携帯電話(*1)、自動車などがネットワークにつながる事が予想されていました。また、ビジネスの新しいインフラとして、情報産業だけでなく、金融、製造、流通、放送などあらゆる業界に変革をもたらすものとして、予測されていました。さらに、この上に新しい産業が育つことに期待が集まっていた時代です。

*1:「iモード」のサービスは1999年に始まり、当社は他社に先駆けてデジタル・ムーバF501i Hyperを出荷しました。



第11代社長 秋草直之



デジタル・ムーバ F501i Hyper

3. Everything on the Internet

このような時代背景の中、1999年に富士通は新しいスローガンとしてEverything on the Internetを掲げ、あらゆる活動をインターネットにフォーカスすることと致しました。

ソフト・サービス、通信や情報機器のハードウェア、これを支える電子デバイスなどの商品はもちろん、社内のオペレーションやお客様との取引も含め、あらゆる面でインターネットにフォーカスして行ったのです。

秋草は、富士通が情報技術の「メインバンク」としてお客様の経営に関わり、その中で、インターネットを核にして社会、企業、個人が抱えるあらゆる問題への解決策を提供する会社となることを目指しました。その活動の一環として2000年には日本初のインターネット専門銀行「ジャパンネット銀行」、同じく日本初の証券会社「インターネット・トレーディング証券」を設立しました。それぞれのお客様に対して、魅力的なビジネスの場を提供する時代が始まりました。まさしく、すべてのサービスがインターネット上で実現できる時代を実現して行きました。

4. IoTの時代へ

昨今、人、もの、環境などあらゆるものがネットワークで繋がるIoT（Internet of Things）に注目が集まっています。富士通はあらゆるデジタル情報を活用し、人を中心とした「ヒューマンセントリックIoT」を推進しています。ここでは、多種多様な業種・業態に、富士通の持つテクノロジーを掛け合わせることで、新たなビジネスをお客様と共に創り出すことを狙っております。

1999年から提唱されたスローガンであったEverything on the InternetはIoTの時代の先駆けとして今も生きています。

5. 富士通の歴史見学施設

富士通沼津工場には、歴史に触れる施設として、『富士通アーカイブズ』の展示エリアやコンピュータの発展に寄与した池田敏雄を紹介する『池田記念室』があります。是非、ご見学にお越しく下さい。

富士通はこれからもみなさまとともに成長し、社会的使命を果たして参ります。ご支援、ご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。